

令和4年度学力検査問題

国語

注意

- 1 監督者の開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから10ページまであります。
- 3 解答は、全て解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 4 解答用紙の※印の欄には、何も記入しないでください。
- 5 監督者の終了の合図で筆記用具を置き、解答面を下に向け、広げて机の上に置いてください。
- 6 解答用紙だけを提出し、問題冊子は持ち帰ってください。

一 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

私は人口減少がもたらす変化に対応するための「しなやかさ」を身に付けるには、エンパシーと呼ばれる力が極めて重要になると考える。エンパシーには日本語にピタリとはまる訳語がなく、聞きなれない言葉だが、シンパシーと似ている。X その意味は少々異なっていて、シンパシーが「自分は違う立ち位置にいて、相手に同情する」ことを指すのに対し、エンパシーは「自分も相手の立場に立って、気持ちを分かち合う」ことを意味する。

例えば、穴に落ちて困っている人への対応をイメージすれば分かりやすい。落ちた人を穴の上から覗いて心配することがシンパシーだ。これに対して、自分も穴の中に降りていって、一緒に解決策を考えるのがエンパシーである。自分と違う価値観や理念を持っている人が何を考えているかを想像する力とも言えるだろう。コミュニケーション能力の基礎である。

なぜ人口減少社会においてエンパシーが極めて重要になるのかと言えば、これから訪れる社会はいままでの日本とは全く異なるからだ。繰り返すが人口減少がもたらすこれからの激変は、すべての分野に例外なく起こる。そして誰も経験したことのない大きな変化となる。過去の経験則や知識といったものは役に立たないのだから、各人がおのおのの立場を超えて理解し合い、新たな知恵を出さざるを得ない。私は地域の暮らしにおいて「助け合い」の必要性を繰り返し説いてきたが、①世代を超えたコミュニケーションを形成し、生かしていくためにはエンパシーによる相互理解は不可欠なのである。

例えば、二十一世紀の日本は超高齢社会が進んでいく。社人研の推計では二〇六七年の百歳以上人口は五十六万五千人となり、その年の年間出生数五十四万六千人を上回る。九十年代に限っても五百八十六万七千人だ。これだけ多くの九十年代、百代が暮らす社会は世界のどこを探してもないだろう。予期せぬことがどんな形で起きてくるのか想像もつかない。

現状で言えることは、もしこれらの年代の人々の暮らしが成り立たなくなったならば、若い世代の社会的負担はさらに大きくなり、社会全体に少なからぬ影響が出てくるということだ。九十年代、百代の人々の暮らしを支えていくためには、まずはこうした年齢の人々がどのような環境に置かれているのかを知ることだ。どんなことに喜びを感じ、どんな悩みを抱いているのか、理解する必要がある。いまやAIによって、視力の衰えた高齢者の視界がどれほどまでに狭まっているのかを簡単に映像化することができる。筋力の衰えでどれぐらいの歩行スピードとなるのか、あるいは握力が弱り、瓶の蓋はどれぐらいの硬さになったら開けられなくなるのかといったこともシミュレーションし、疑似体験することも可能だ。違う立場の人々を理解するために積極的にアプローチをしないかぎり、真にa必要な政策を講じることはできない。ニーズを把握してマーケットを掘り起こすこともできない。

ビジネスシーンで言うなら、働く世代の激減に伴って外国の人々とbさまざまなチャネルで交流する機会も増えるだろう。商習慣に始まり、文化や価値観も含めてお国柄の違いに戸惑い、摩擦が生じる場面も断然多くなるだろう。日本人同士でもテレワークや在宅勤務が普及するにつれて、直接会うよりも正確な情報のやり取りや意思の疎通が求められるようになってくる。これまで以上に相手の立場になつてものを考え、世代を超えた相互理解を図るべく積極的に努力しない限り、社会は円滑に回っていかなくなるということである。エンパシーとは、人口減少社会になくはならない②潤滑油なのである。

言うまでもなく、他人に寄り添う気持ちの強さは、誠実さや礼儀正しさなどと並ぶ日本人のc代表的な国民性であり、美徳だ。そうした意味では、エンパシーが日本社会に定着しやすい素地はある。すでに身に付けているという人も少なくないことだろう。X 子供について考えるならば、エンパシーが自らの体験の中から学ぶものである以上、価値観が異なる人との交流や、異文化に接する体験はなるべくd小さな頃から積んでおいたほうがよいが、一方で最近では少子化で学級数は減っており、クラス替えすら

ままならないという学校も増えてきている。今後は幼少期の教育の中において、高齢者との交流や外国人と一緒に行動したり、遊んだりする機会を意図して増やしていくことも考えなければならなくなるだろう。

多くの人がエンパシーを身に付け、相手を思いやるのが当たり前前の社会となったならば、日本の未来は大きく変わる。

(河合雅司『未来を見る力 人口減少に負けない思考法』による。一部改変)

(注) 社人研：国立社会保障・人口問題研究所の略。

AI：人工知能。推論、判断などの知的な機能を備えたコンピューター・システム。

問一 本文中の二箇所空欄 X に共通して入る語句として最も適当なものを、次の 1～4 から一つ選び、番号を書け。

- 1 では
- 2 または
- 3 なぜなら
- 4 ただ

問二 本文中の a 必要な b さまざまな c 代表的な d 小さな のうち、品詞が異なるものを一つ選び、記号を書け。

問三 本文中に ① 世代を超えたコミュニティを形成し、生かしていく とあるが、そのために書き手が必要だと述べている内容として最も適当なものを、次の 1～4 から一つ選び、番号を書け。

- 1 高齢者がふだん感じている喜びや悩みを耳を傾け、新たな商品市場を開拓することで、個人の利益を追求すること。
- 2 働く世代の人々に限定して、高齢者と交流して情報のやり取りを行う機会を増やし、世代間の交流を図ること。
- 3 高齢者の置かれた状況を疑似体験するなどして理解し、解決に向けた策を講じるため積極的に努力すること。
- 4 日常生活で高齢者が感じている困難に理解を示した上で、高齢者同士が自立して助け合う意識を高めること。

問四 本文中の ② 潤滑油 とは、エンパシーのどのような働きをたとえたものか。解答欄の下の「働き。」という語句に続くように、十字以内でまとめて書け。

問五 次の [] の中は、本文中の 「しなやかさ」 について述べたものである。

書き手の述べる「しなやかさ」とは、人口減少に伴い [ア] が役に立たなくなる中で、 [イ] できる柔軟性のことである。

(1) [ア] に入る内容を、本文中から九字で探し、そのまま抜き出して書け。

(2) [イ] に入る内容を、二十五字以上、三十字以内で考えて書け。ただし、価値観、変化 という二つの語句を必ず使うこと。

問六 本文の展開や内容について説明した文として最も適当なものを、次の 1～4 から一つ選び、番号を書け。

- 1 具体的な事例を織り交ぜながら、超高齢社会においてシンパシーを身に付けることの大切さを主張している。
- 2 論の中心となる語句について初めに書き手の解釈を示した上で、今後の人口減少社会で重要なことを述べている。
- 3 世界の人口や出生数を提示して、人口減少社会において諸外国との関係で起きる問題を具体的に述べている。
- 4 他の考え方に対する書き手の反論を具体例を挙げて示し、超高齢社会における人々の在り方を主張している。

次は、【文章】とそれに関する【資料】である。

- (1) 次の【文章】を読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。
【文章】

【ここまでのあらすじ】老舗車いすメーカーの藤沢製作所で働く山路百花は、採用面接のことを回想している。面接者は、社長の藤沢由利子、社員の小田切、石巻であった。由利子に志望理由を問われた百花は、親友で車いすテニス選手の君島宝良がきっかけとなって車いすに興味を持ち、競技用車いすの製作を仕事にしたいと思うようになったことを、情熱をこめて答えた。すると、宝良の活躍が話題になった。

「ただ彼女の場合は、その前の一般テニスのキャリアも相当のものですから。高校二年で受傷する前はインターハイ出場経験もあるそう、テニス技術はすば抜けています。ただ、まだチェアワークがベテラン勢に追いつかず、そのせいでグレードの高い大会では優勝争いに食い込めずにいるんですが、これでチェアスキルも身につければ七條玲に次ぐ日本のトッププレイヤーになると思います」

百花は、宝良がいずれ日本だけではなく世界までも舞台にして戦う車いすテニスプレイヤーとなることを疑ったことはなかった。けれど、自分以外の誰かがはつきりと宝良の力を認めるのを聞いたのは初めてで「ありがとうございます！」と自分のことでもないのに小田切に勢いよく頭を下げた。小田切は少しじろいだように身を引いて、百花の履歴書のコピーを手にとった。

「山路さんは、競技用車いす部門への配属を希望しているとのことですが」

「はい。友人が最高のプレーができるような、いい競技用車いすを作りたいです」

「それでは、君島選手がもし将来的に競技をやめたら、あなたにとっても車いす作りは意味がなくなるんですか？」

予想もしていなかった質問に、え、と声もれた。

そんなことはない、と答えようとしたが、本当にそんなことはないのか？ と自分の内なる声に問いたたされて迷いが生じ、小田切のこちらを見据えて逸れることのない視線に気づくとなおさら言葉がもつれて、①百花は頭が真っ白になってしまった。

石巻が眼鏡のブリッジを押し上げながら咳払いした。

「小田切くん、そういう小意地の悪い質問で若者をいじめるのはよしなさい。圧迫面接だのパワハラだの、今はすぐにネットで

広まるのは知ってるだろう」

「自分はいじめる意図はなく、ただ疑問に思ったことを」

「人が何かをめざすきつかけは本当にさまざまだし、それはたいてい身近で個人的なものだったりします。ただ、きつかけはきつかけでその人の意志をずっと規定するものではないでしょう。年月と経験を重ねるごとに仕事への思いは変化していく。あなたもよく知っているようにね」

由利子がやわらかく笑いかけると、小田切は少し黙ってから「その通りです」と声を落とした。由利子は百花と目を合わせると、ゆるぎない微笑を浮かべた。

「あなたは車いすテニスをするお友達のために、いい車いすを作りたいと言いましたね。では②『いい車いす』とは、どんなものだと思いますか？」

この質問にもまた百花は焦った。採用試験のために勉強したから車いす作りの工程はおおむねわかつている。でも『いい車いす』の定義とは何なのか。速いこと？ 軽いこと？ 丈夫なこと？

どれも重要だが決定的ではない気がして、脈ばかり速くなる。

それでも、この問いかけには、全力で答えなければならぬ。そう思った。どんなに拙くても、今の自分が持っている精いっぱいという言葉で、自分が作りたいと願う車いすのことを、自分が一緒に働きたいと望むこの人たちに伝えなければならぬ。

「——その人を、自由に作る車いすです」

長い沈黙のあとに口を開いた時、声が少し震えた。こんなにも真剣に言葉を探したことも、こんなにも切実に伝えたいと願ったことも、今までになかった。

「その人が、やりたいことを、やりたい時に、やりたいようにできる。その手助けをする車いすです。そんな、その人を自由に作る

車いすを、わたしは作りたいです」

言葉を切ったその時、宝良の姿が（ ）裏をよぎった。ポニーテールをひるがえし、手の皮が剥けるまで車いすを走らせ、球を追ってテニスコートを駆けまわる宝良。

ああ、そうだ。23・77×10・97メートルのコート。あの場所でもっと宝良を自由にする車いすを作る。それが、わたしの夢だ。

長机の上で手を重ねた藤沢由利子が、親愛のこもったほほえみを

(注) インターハイ…全国高等学校総合体育大会のこと。 チェアワーク…車いす操作。 グレード…等級。 チェアスキル…車いす操作の熟達した技術。ブリッジ…眼鏡の左右のレンズをつなぐ部分。

浮かべた。

「私たちも、そんな車いすを作りたいたいと常に願っています。藤沢の車いすを必要としてくれるすべての人のために」

この面接から三日後、自宅に藤沢製作所の社名入りの封筒が届いた。

百花は震える指で封を開け、採用通知を見た時、玄関先の郵便受けの前で泣いた。

(阿部暁子『パラ・スター〈Side 百花〉』による。一部改変)

問一 本文中に（ ）裏 とあるが、「頭の中」という意味の二字熟語になるように、（ ）に当てはまる漢字を楷書で書け。

問二 本文中の——線を施したa、b、cの「あなた」のうち、指し示す人物が異なるものを一つ選び、記号を書け。また、選んだ記号の人物が誰を指すのかを本文中から探し、そのまま抜き出して書け。

問三 次の□の中は、本文中の①百花は頭がまっ白になってしまった。□について、その理由を整理したものである。□Iに当てはまる内容を、十字以上、十五字以内でまとめて書け。ただし、体言止めを用いて書くこと。

・予想外の質問 ・□I ・こちらを見据えた小田切の視線への気づき	百花は頭がまっ白になってしまった。
--	-------------------

問四 次の□の中は、本文中の②『いい車いす』とは、どんなものだと思いますか？ の前後における描写についてまとめたものである。

抜き出して書け。□ア、□イに入る内容を本文中から探し、□アは七字で、□イは十一字で、それぞれ本文中からそのまま使うこと。実現 については、活用させてもよい。

□ア □イ □ウ

百花は、自分の考えを全力で由利子に伝えた。百花の言葉を聞いた後のより温かみのある「□イ」からは、□ウという百花の考えが、由利子の常に願っていることと合致したことが読み取れる。

問五 本文の構成や表現の特徴を説明した文として最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書け。

- 1 回想の場面と現在の場面とを交互に描くことによって、車いす作りに対する百花の今後の夢を明確に述べている。
- 2 短文を連続して用いることで、緊張して面接に臨みつつも、質問に間髪をいれず答える百花の姿を強調している。
- 3 比喻と反復の表現を多用することによって、登場人物の言動を強調するとともに百花の人物像を際立たせている。
- 4 様々な登場人物の会話文を入れたり、百花の心の声を地の文で述べたりすることで、面接の臨場感を表している。

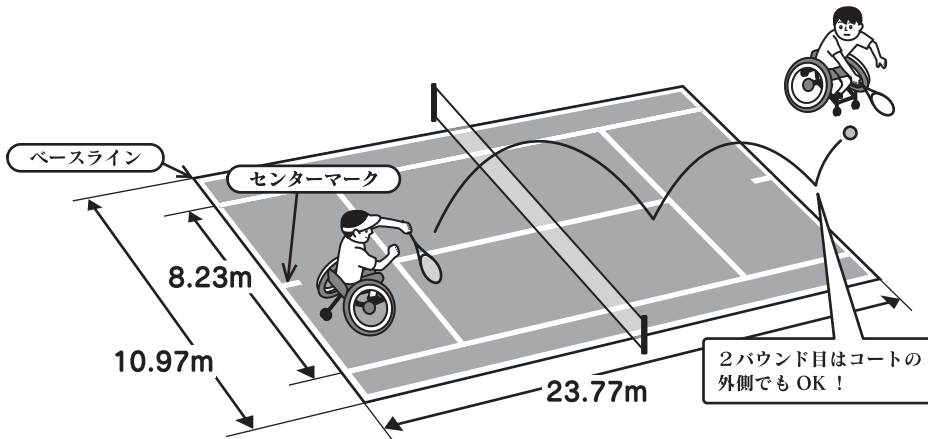
(2) 次は、【文章】を読んで、車いすテニスに興味を持った東さんが調べた【資料】である。これを読んで、後の各問に答えよ。

【資料】

車いすテニスの主なルールと使用するコート

ルールと、使用するコートや道具は、一般のテニスとほとんど同じです。大きく異なるルールは、車いすを使用することを考慮して、「2バウンド以内の返球」が認められていることです。

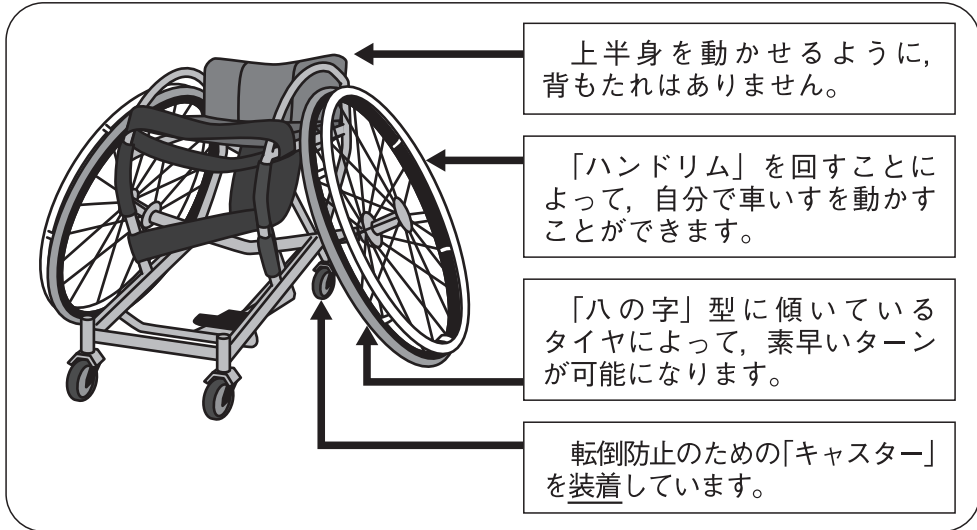
また、車いすを操作する際には、臀部を浮かして球を打つこと、足を使ってブレーキや方向転換操作をすること、地面に足をつけることは禁止されています。



競技用車いす

技術の結晶

使用する車いすは、競技のために、専用に作られたものです。車いすに乗った状態でプレーがしやすいように、さまざまな工夫が見られます。トップ選手の車いすは、シートの厚さや高さ、タイヤの角度、選手の体格などを考えて作られています。



(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会「かんたん！車いすテニスガイド」を基に作成)

問一 【資料】を読むことで、【文章】の の中のどのようなことが詳しく分かるか。次の1～5から全て選び、番号を書け。

- 1 「ポニーテールをひるがえし」ながら宝良が体を傾けていたのはどの方向かということ。
- 2 「手の皮が剥けるまで」練習した宝良が操作していたのは「ハンドリム」だということ。
- 3 「球を追って」とあるが、宝良が追っていた球の速さがどのくらいのものかということ。
- 4 「駆けまわる」宝良が、実際の試合で、どのように動いて球を打ち返したかということ。
- 5 「23・77×10・97メートルのコート」は、具体的にどのようなものなのかということ。

問二 【資料】の 装着 の漢字の読みを、平仮名で書け。

問三 【資料】の 考慮 の 線を施した漢字を楷書で書いたときの総画数と、次の1～4の 線を施した部分に、適切な漢字をあてて楷書で書いたときの総画数が同じものを、1～4から一つ選び、番号を書け。

- 1 立派な 績をあげる。
- 2 親 行する。
- 3 沢のある布を使う。
- 4 福を手に入れる。

問四 「兼用」の対義語を、【資料】の中から探し、そのまま抜き出して書け。

問五 【資料】の中で用いられている次の文字の、Aの部分に表れている「点画の省略」という行書の特徴と同じ特徴が表れている部首を、次の1～4から一つ選び、番号を書け。



1 貝 (かいへん)

2 才 (てへん)

3 竹 (たけかんむり)

4 雨 (あめかんむり)

三

次は、中国の唐の時代の『蒙求』の一部と、それを題材にした鎌倉時代末期の『徒然草』の一部と、『徒然草』の現代語訳である。これらを読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

『蒙求』

許由、箕山に隠れ、盃器無し。手を以て水を捧げて之を飲む。①人一瓢を遺り、以て操りて飲むことを得たり。飲みをはりて木の上に掛くるに、風吹き瀝瀝として声有り。由以て②煩はしと為し、遂に之を去る。

(注) 箕山：今の河南省にある山。 瀝瀝：風の音の意。

『徒然草』

人は、おのれをつづまやかにし、おごりを退けて、財を持たず、世をむさばらざらんぞ、いみじかるべき。昔より、賢き人の富めるは稀なり。

唐土に許由と言ひつる人は、さらに身にしがへる貯へもなく、水をも手して捧げて飲みけるを見て、なりびさこといふ物を人の得させたりければ、ある時、木の枝にかけたりけるが、風に吹かれて鳴りけるを、かしかましとて捨てつ。また手にむすびてぞ水も飲みける。③いかばかり心のうち涼しかりけん。孫農は、冬月に衾なくて、藁一束ありけるを、夕には是に臥し、朝には収めけり。

もろこしの人は、これをいみじと思へばこそ、記しとどめて世にも伝へけめ、これらの人は、語りも伝ふべからず。

現代語訳

人は、わが身をつつましくして、ぜいたくをしりぞけ、財宝を所有せず、俗世間の名誉や利益をむやみに欲しがらないのが、立派だといえよう。昔から、賢人であつて富裕な人は、めったにいないものである。

中国で許由といった人は、少しも身についた貯えもなく、水さえも手でもってすくいあげて飲んでいたのを人を見て、なりびさこ(瓢箪)というものを与えたところが、ある時、木の枝にかけてあつたその瓢箪が、風に吹かれて鳴つたのを、やかましいといつて捨ててしまった。それからまた前のように手ですくつて水も飲んだ。I。孫農は、冬季に夜具がなく、一束の藁があつたのを、日暮れになるとこれに寝て、朝になると取りかたづけたということである。

中国の人は、これらを立派なことだと思へばこそ、書き残して後世にも伝えたのであろうが、我が国の人は、語り伝えさえしそふにもないことである。

(注) 瓢箪…ウリ科の植物。熟した実の中をくりぬいたものを、水をすくう道具などとして用いる。

問一 『蒙求』の 飲いんみをはりて を、現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書け。

問二 『蒙求』の ① 人いっぺう一瓢を遺おくり という書き下し文の読み方になるように、解答欄の漢文の適当な箇所箇所に、返り点を付けよ。

問三 『蒙求』の ② 煩わづらはし と同じ意味で用いられている語を『徒然草』から探し、そのまま抜き出して書け。

問四 『徒然草』に ③ いかばかり心のうち涼しかりけん とあるが、どういうことか。現代語訳の I に入る内容として

- 最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書け。
- 1 どんなにか心の中はすがすがしかっただろうか
 - 2 どんなにか心の中は寂しかっただろうか
 - 3 どんなにか心の中はわびしかっただろうか
 - 4 どんなにか心の中は楽しかっただろうか

問五 次の の中は、『蒙求』、『徒然草』を読んだ小島さんと堤さんと先生が、会話をしている場面である。

小島さん 『蒙求』に出てくる「許由」は、水をすくう道具でさえ必要ないと思うような ア な生活を実践した人物だと思います。

堤さん そうですね。出家して草庵そうあんで暮らしたといわれる兼好法師は、『徒然草』のこの部分で、ぜいたくを嫌ってつましく生きた立派な人物の例として「許由」と「孫辰」の逸話を引用しているのでしょね。

先生 「許由」が俗世間を避けて、『蒙求』の中にある「箕山」で暮らしたのは、王が「許由」に帝位を譲ろうとした時に、それを断ったのがきっかけであるという逸話もありますよ。

堤さん その逸話も踏まえると、自分の名誉や利益を求める気持ちがない「許由」は、 イ を持たない人物でもあったと思います。

小島さん 『徒然草』には、そのような人物について、 ウ ことへの兼好法師の嘆きが表れていると思います。
先生 二人とも、『蒙求』と『徒然草』を比べて読んで、考えを深めることができましたね。

- (2) (1) ア 、 イ に最もよく当てはまる熟語を、それぞれ漢字二字で考えて書け。
 ウ に入る内容を、十字以上、十五字以内で考えて書け。

四

狂言とは、六百年以上の歴史を持つ日本の伝統芸能で、滑稽なせりふやしぐさを中心に演じる劇である。次は、F市で開催を予定している中学生対象の「狂言体験教室」について、多くの中学生に興味を持ってもらうために、市役所の担当者が作成中の【ポスター】である。これを見て、後の問に答えよ。

【ポスター】

F 市中学生 「狂言体験教室」

狂言を知ろう、見よう、やってみよう！

プログラム

- ① 狂言についての説明
- ② 鑑賞『附子』
- ③ 狂言体験



日 時：10月30日（日）10：00～11：30

会 場：F市民センター

入場料：無料

問【ポスター】の空白部分……の内容として、左の【案】AとBについて、中学生の考えを聞かせてほしいと、市役所の担当者から中学校に依頼があった。あなたならどのような考えを伝えるか。次の条件1から条件4に従い、作文せよ。

【案】 A

『附子』 主人と家来の知恵くらべ！

あおげ、あおげ
あおぐぞ、あおぐぞ

太郎冠者
次郎冠者

この話の主人は「砂糖」を猛毒「附子」だとうそをつき、外出します。留守番の二人の家来は砂糖だと知り、全部食べてしまいます。さて、二人は主人にどのような言い訳をしたのでしょうか？
続きは体験教室で！

B

「狂言の体験でござる」
～これであなたも狂言師！～

「エヘ、エヘエヘエヘ」と声を上げ、そろえた手を顔の前に持ってきて、腰を折り、前かがみになる。

何を表すしぐさ？

- 1 食べる
- 2 飲む
- 3 笑う
- 4 泣く

犬は何と鳴く？

- 1 ネウネウ
- 2 ビョウビョウ
- 3 クワーイ
- 4 トッテンコー

答えは体験教室で！

条件1 文章は、二段落構成とし、十行以上、十二行以内で書くこと。

条件2 第一段落には、【案】AとBのそれぞれのよさに触れた上で、どちらの案を選ぶか（どちらを選んでもかまわない）、あなたの考えを書くこと。

条件3 第二段落には、第一段落を踏まえ、あなたが選んだ案について、さらに工夫できることを考えて、理由とともに書くこと。

条件4 題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方に従って書くこと。